

長野県埋蔵文化財センター ニュース

No. 25・26

1988.9

(財)長野県埋蔵文化財センター

〒388 長野市篠ノ井布施高田字佃963-4
TEL 0262-93-5926



石川条里遺跡水田跡(平安時代)

昭和63年度

長野県埋蔵文化財センター発掘調査の概要

長野調査事務所

本事務所が開設して2年目の本年度は、中央道長野線に係る発掘調査が善光寺平ではじめて実施されることになった。当初予定は6遺跡であったが、用地買収等の関係で、坂北村十二、長野市鶴前、石川条里と中途加わった赤沢城跡の4遺跡が調査対象となった。

1) 十二遺跡(東筑摩郡坂北村)

東条川の1支流を望むゆるやかな西斜面上にある。表面採集では若干の石器等が認められていたが、1,500㎡に及ぶトレンチ調査では遺物包含層は認められなく、このため調査をうちきった。

2) 鶴前遺跡(長野市塩崎)

石川条里遺跡を東方眼下に望む緩斜面上にある。当初4,500㎡であったが、調査の結果、路線内11,300㎡に及ぶことが判明し、来年度と2ヶ年で終了すること

とした。今年度は5,900㎡実施し、堅穴住居跡(縄文前期1、古墳時代初期23、奈良時代1、平安時代10)掘立柱建物跡5と溝・土坑などを検出した。生産域である石川条里遺跡をとりまく集落跡として注目されるが、とくに、古墳時代初期の集落跡とそこから出土した加賀・越後などの北陸系土器は、当地方の古墳文化成立の背景を知るうえで重要な調査となった。

3) 石川条里遺跡(長野市塩崎)

長野市教育委員会がは場整備事業に係る発掘調査を昭和57年以来実施し、平安時代の埋没条里水田が今日の水田景観にまで受け継がれていることを明らかにしてきた。さらに弥生時代以降の水田跡も予想していた。しかし、いずれもトレンチ調査で面的調査は未実施で細部については明らかにされていなかった。

調査は水田地帯における低湿地遺跡であるうえに遺構面が現地地表3mに及ぶことが予想されるために、

事前に矢板工事を実施し、排水対策、さらに安全面を十分に考慮に入れた調査計画をたて、鶴前遺跡側から順次東へと実施した。その結果、条里遺構については、Aa-1地区において、平安時代の洪水砂でバックされた状態で14枚の水田跡を検出した。1枚の水田跡の規模は南北8m、東西20m前後である。ただし、東西幅は一定であるのに対し、南北幅は不規則である。このことは、条里の地割にあたって、南北の線を基本とする配慮のあったことが読みとれる。坪地割がどうであったか今後の課題であるが、それが明らかにされることによって南北幅も明らかにされるであろう。加えて、JR稲荷山駅と中郷神社を結ぶ線に低台地があり、ここが弥生時代以降の居住域であり、石川条里遺跡を東西に二分していることが判明した。水系・地形などの相違からくるものであろうか、東西地区の水田形態に違いがあろう。とくに東地区は試掘坑によれば聖川にむけて湧水・湿性が著しく、条里水田でも杭列と板材などを用いた畦畔を部分的に用いていることや、弥生・古墳時代では杭と板材で補強した畦畔の存在が予想され、木製品の出土も多いことと思われる。

松塩筑調査事務所

当所の本年度事業には、明科町北村遺跡2年次発掘調査と、塩尻市内その2（吉田川西遺跡）松本市内その2（神戸・中二子・上二子遺跡）松本市内その7・豊科町内（南中・北中・北方・上手木戸遺跡）報告書刊行にむけた整理作業、日本民俗資料館企画展での資料公開がある。

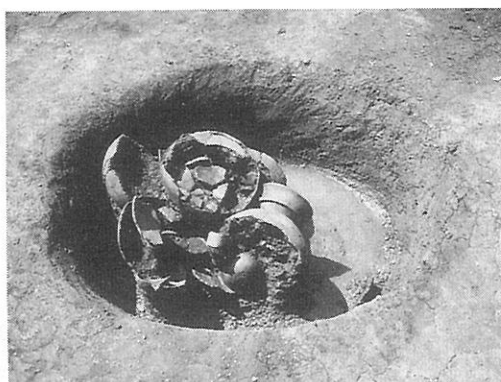
1) 北村遺跡の調査

本年度に持ち越された構造物等の収去に伴う未調査部分につき、4月～9月にかけて調査を行ない、現場作業を終了した。

調査結果については、昨年度以来3回の現地説明会当埋文センター年報4、長野県考古学会63年度大会、報道機関への公開等で概要の紹介をしてきたが、整理作業が未了のため、調査成果に関する修正、補充は今後に残されている。現時点で確認している遺構概数は以下のようである。

	住居跡	掘立柱建物跡	土坑墓 配石墓	集石	柵	溝	土坑
古墳～平安	19	44	—	—	6	32	410
弥生	7	—	—	—	—	—	—
縄文	63	—	約385	約30	—	—	約2000

なお、ほぼ全骨格を残す24体を含め、約400個体分の縄文人骨がある。紙面の関係から縄文関係の主たる成



古墳時代土坑

東西水田域を区画する居住域では古墳時代中期初頭と中世の遺構が目目される。とくに前者では幅13mの大溝の東側に多量の土器や焼土・炭を埋没させた土坑群が検出された。大溝が何を意味するか、今後の課題であろう。

広大な面積を短かい期間で、しかも深く埋没した幾層にもわたる低湿地遺跡の調査ははじめての経験であり調査方法を早急にうちたてる必要がある。

果や資料性につき、記すことにする。

遺跡の住居は、JR篠ノ井線田沢～明科駅間に当たり、犀川段丘礫層を東山麓方向から押し出す東高西低の沖積堆が覆う斜面に立地し、中期末～後期中葉まで継続した集落跡である。現地表面3～6mにあり、敷石・配石・集石・立石などを組合せた住居群・墓群・集石群からなり、墓群では埋葬姿勢を保つ人骨を遺存させるものの多い点が注目されている。

これらの各種資料から、段丘を厚く覆う沖積地帯における縄文遺跡立地、中期末～後期中葉に至る集落構造と墓制、土器編年、また、分析可能な人骨資料による人類学や環境生態学等、考古学のみならず、人を取りまく学際的観点に立つ遺跡研究に耐え得る資料であろうと考えている。なお、人骨については形質学的、化学的分析を専門機関に依頼してある。

2) 塩尻市内・松本市内・豊科町内遺跡整理作業

本年度刊行予定関連の遺跡は、松本平沖積地開発にかかわる古代以降の集落跡が中心になっている。報告書では、遺跡個々の分析はもちろんのことながら、関連遺跡全体を総括した地域史の組立てをめざしている。

3) 日本民俗資料館中央道発掘遺物展での資料公開

期間中、延べ20万人の参観を得て盛会であった。



佐久市下茂内遺跡（B地区）全景

佐久調査事務所

上信越自動車道建設による埋蔵文化財の発掘調査は昭和61年10月に開始し、本年度で3年目を迎える。本年度は、岩村田地区4遺跡、平根地区6遺跡、東地地区6遺跡の計16遺跡（昨年度からの継続遺跡も含む）、調査面積およそ138,000㎡である。本年度をもって、県境から佐久インターチェンジまでの23遺跡の調査をすべて終了するよう計画している。

本年度の発掘調査は、当初、4月11日から開始する予定であったが、7日に大雪にみまわれたため、本格的な調査は18日から開始することとなった。主な遺跡の調査の概要はつぎのとおりである。

1) 栗毛坂遺跡（佐久市岩村田地区）

昭和61年度からの継続調査であり、本年度の調査面積は7,800㎡である。調査の概要は昨年度までの調査と同様で平安時代の集落跡を主体とするものであるが、湯川に近い段丘端部に縄文時代後期の土坑数基と弥生時代後期の住居跡1が検出されたことは新発見である。

2) 北山寺遺跡（佐久市平根地区）

平尾富士西麓端の台地に位置する。平安時代の住居跡8・掘立柱建物跡1、および中世の所産と思われる

性格不明の堅穴状遺構、土坑などが検出された。

3) 丸山遺跡（佐久市平根地区）

平尾富士南麓の谷間の平坦部に位置する。調査面積は25,000㎡と広いが、縄文時代中期の住居跡1、土坑数基、平安時代の住居跡2が検出されたのみである。

4) 大星尻古墳群（佐久市平根地区）

平尾富士南麓端に位置する。当初、古墳状のマウンドが8基ほど確認されていたが、調査の結果、古墳はほとんどなく、古墳時代末期の横穴式石室を持つ古墳1基と近世墳墓2基を検出した。なお、周辺で縄文時代中期、弥生時代後期の土坑数基が検出された。

5) 下茂内遺跡（佐久市東地地区）

寄石山の北西麓、香坂川左岸の海拔およそ930mの台地上に位置する。一帯は山林であり遺跡の範囲性格が不明であったために、まず、試掘調査から実施した。それによって、遺跡の範囲は約30,000㎡に達し、縄文時代草創・早～晩期、弥生時代後期、平安時代、中世と相当長い期間にわたって、人々の生活の舞台であったことが判明した。特に、調査が進むにつれて縄文時代草創期の石器（尖頭器）製作に深く係った遺跡であることが明らかとなってきたが、県内でも類例のないものであり注目される。



佐久市金井城跡の調査

佐久市埋蔵文化財センター 小山 岳 夫

金井城跡・中金井遺跡は佐久市の北端部小田井地区に所在する。昭和62・63年度長野県土地開発公社による小田井工場団地造成事業に伴い、事業対象地区約80,000㎡にわたる緊急記録調査が佐久埋蔵文化財調査センターによって実施された。調査期間は、昭和63年3月～11月の8ヶ月余りの長期に及び、未買収地等を除く、本年の調査実施可能地区すべての現地調査を完了予定である。城郭の沿革・概要を列記する。

立地 湯川右岸の標高750～760mの平坦な台地上にあり城域は北側を除く三方向が河床との比高40m内外の切り立った断崖に囲まれ、自然の要害に堅く守られている。

城郭の構え 南東側の台地最奥部崖ぎわに主郭を置き、これを基点として扇型に広がる総面積20万㎡近い大規模な城郭が展開される。城郭用語で梯郭式と呼ばれる構えである。現段階で大小様々な規模の空堀が八重にわたって巡らされている事が確認され、調査団では内側から便宜的に主郭→二郭→三郭→外郭と仮称している。また、城域の北東部にはもう一つ独立した略長方形の郭があり、北郭と仮称している。

各郭の状況 主郭と二郭の大部分は調査区外であるため、状況不明の点が多い。

三郭はほぼ全域が調査され、ほぼ様相が把握できる。郭内は、東側三分の一を区画する弧状の堀や北側を方形区画する堀など数条の小規模な堀で仕切られ、その区画毎に遺構の在り方が、少しずつ異なるようであるが、検出された建物跡はいずれの区画も一辺1.5～5mの概して小規模な方形竪穴式のものが目立つ。竪穴建物は三郭内に300棟前後林立していたと考えられ、建て方には一定の計画性やまとまりが認められる。このほか、同時期の少数の掘立柱建物跡、相当数の性格不明の土坑や径20cm前後の極小規模の柱穴も検出されている。柱穴は今後の検討で掘立柱建物跡として把握されるものも増加すると思われるが、いずれにしても大規模建物が存在する可能性は薄い。

三郭の西方外側の郭になると遺構は激減する。この傾向は西へ進むほど顕著となり、最も外側の郭では遺構の存在は皆無となる。

三郭以外で遺構が密集する状況を示すのは北郭である。竪穴建物70棟近くが林立し、土坑・柱穴が相当数存在する傾向は三郭と同様であるが、竪穴建物の構造は出入口状の張り出し部を有し、壁体に厚い土材を使用するなど大きな違いがある。

このほか、三郭の北方には馬出し状の円形に巡る堀が見られる。

今回調査されたいずれの郭・城域からも井戸は検出されず、炉・竈等の火処も2・3例しか認められなかった。また、生活用品となるべき遺物も少量であり、専ら古代集落の調査に勤しんでいる私達には生活臭が薄く感じられる事象が多かった。城郭の継続年代が短期間であった事を示すものであるのかもしれない。

まとめ 本城は戦国時代後期に存在したことが文献に記されるが詳細を記した文献は皆無に近く、「負け

たものの歴史は残らない」という典型的な城跡である。

このため、金井城の壮大な規模については今回の調査で始めて明らかになった訳である。往時の社会情勢を考えれば、大規模城郭築造の契機は1542年以降佐久地方の侵略を開始した武田晴信（信玄）への佐久武士団の脅威が強く作用したことが感じられよう。今後、検出された遺構遺物に詳細な検討を加えるとともに、城郭の縄張り研究をはじめ諸分野の研究成果も駆使して金井城の中世社会における位置付けを行っていく予定である。

昭和63年度 長野県埋蔵文化財センター組織一覧（昭和63年4月1日現在）

（○印新任、●兼任）



○理事会

理事長	村山弘正	(県教育長)
副理事長	高塚原隆明	(長野調査事務所長)
理事	伊藤万寿雄	(佐久調査事務所長)
"	山根達治郎	(県企画局長)
"	濱田篤	(県高速道局長)
"	森嶋貞雄	(県教委文化課長)
"	稲玉秀雄	(長野県考古学会長)
"	神村亮	(更埴市長)
"	岡田透	(長野市教育長)
監事	藤田三泉	(考古学研究者)
"		(県会計局会計課長)
"		(県教委総務課長)

○事務局（長野調査事務所）

事務局長	・半田順計
兼総務部長	
調査部長	・笹沢浩
総務部長	・永田伸男
事務代理	
主事	・柳沢洋良

○調査事務所

松塩筑調査事務所

○塩尻市広丘高出字西原177
〒399-07 TEL 0263-54-2150

佐久調査事務所

○佐久市大字安原1367
〒385 TEL 0267-68-0261

長野調査事務所

○長野市篠ノ井布施高田字佃963-4
〒388 TEL 0262-93-5926

所 長	堀内 計人	伊藤 万寿雄	塚原 隆明
庶務部	部長・堀内 計人	部長 畑 幹雄	部長・半田 順計
事務職員	主査 藤森 幸枝	部長補佐・中沢 克明	主査・永田 伸男
調査部	部長 宮沢 恒之	主 事・関 次郎	主事・柳沢 洋良
調査研究員	原 明芳 ・寺内 隆夫 青沼 博之 市村 勝巳 大竹 憲昭 小平 和夫 野村 一寿 百瀬 新治 ・竹内 稔 ・平林 彰	部長 丸山 敏一郎 臼田 武正 小野 恵一 中野 亮一 二木 明 寺島 俊郎 ・興水 太伸 降旗 史敬 山上 秀樹 岡村 秀雄 河西 克造 宇賀神誠司 近藤 尚義	部長・笹沢 浩 三上 徹也 綿田 弘実 春日 文彦 市川 隆之 西山 克己 ・平林 芳明 ・臼居 直之 ・山崎 光頭 ・山崎 博也 ・越川 長治 ・内山 美彦
調査員	百瀬 陽三 関 全寿	木内 行雄 小林 秀行 ・下島 章裕 ・木内 英一 高田 実 ・三石 俊司 百瀬 忠幸 吉沢 信幸 井上 城典 ・宮脇 正実 伊藤 隆之 新海 節生	斉藤 伸介 福島 厚利 伊藤 友久 宮尾 栄三 ・太田 典孝 ・青木 一男 ・池田 哲 ・中村 敏生 ・久保 直隆 ・中平 智昭

昭和 63 年 度 市 町 村 別

No.	遺 跡 名	所 在 地	期 間	目 的 因	主 体 者	担 当 者
1	えのき 榎 垣 外	岡谷市長地字柿垣外2291-2	63. 4. 21 63. 6. 27	住 宅	市 教 委	会田 進
2	なか 中 道	上伊那郡箕輪町大字中箕輪2362-1 他	63. 4. 12 63. 6. 10	道 路	"	柴 登己夫
3	森 将 軍 塚	更埴市大字森字大穴山3122-28	63. 7. 1 63. 9. 30	史 跡 整 備	"	岩崎 卓也
4	い 居 平	諏訪郡富士見町落合居平4430-2	63. 4. 20 63. 8. 31	住 宅	町 教 委	小林 公明
5	宮 川 ・ 峰	更埴市大字八幡字宮川・峰	63. 4. 12 63. 9. 13	道 路	市 教 委	佐藤 信之
6	うく 六 反 畑	飯田市切石4053	63. 5. 25 63. 6. 18	建 物	"	小林 正春
7	ご 五 輪 堂	塩尻市大字金井332-3他	63. 5. 10 元. 3. 25	"	"	鳥羽 嘉彦
8	みまざわがわきがみ 三間沢川左岸	松本市大字和田	63. 3. 21 63. 8. 31	その他の開発 (工業団地)	"	神沢昌二郎
9	さん 三 の 宮	松本市大字島立3298-2	63. 4. 26 63. 6. 30	建 物 (公民館)	"	"
10	お 大 村	松本市浅間温泉細田430-1	63. 5. 9 63. 6. 30	住 宅	"	"
11	あら 新 屋 敷	飯田市座光寺4624	63. 9. 1 63. 11. 30	工 場	"	小林 正春
12	吉 田 向 井	塩尻市大字広丘吉田2574他	63. 7. 29 63. 9. 10	道 路	"	鳥羽 嘉彦
13	つゑ 貫 ノ 木	上水内郡信濃町大字柏原字岡実1205-1	63. 7. 31 63. 8. 9	学 術	野尻湖発掘 調 査 団	小野 昭 麻生 優
14	あな 穴 場	諏訪市大字上諏訪北百姓地 6294-1	63. 6. 24 63. 7. 31	住 宅	市 教 委	宮坂 光昭
15	宮 沢 本 村	松本市宮沢本村 8 番 1 号	63. 7. 5 63. 9. 30	建 物 (浄化センター)	"	神沢昌二郎
16	鍛 治 垣 外	伊那市大字手良沢岡37 45 49番他	63. 7. 18 63. 7. 31	農 業 関 連	"	友野 良一
17	大 塚 古 墳	松本市大字里山辺	63. 9. 1 63. 11. 5	"	"	神沢昌二郎
18	こ 小 島	更埴市大字小島	63. 8. 21 63. 9. 6	道 路	"	矢島 宏雄
19	和 田 原 鎌 田 原	小諸市大字御影新田字和田原	63. 4. 21 63. 10. 17	"	"	花岡 弘
20	大室第196・ 197・198古墳	長野市松代町大室3898	63. 7. 26 63. 8. 11	学 術	明大考古研	大塚 初重
21	おち 落 合 B	上伊那郡箕輪町大字東箕輪2052	63. 9. 1 63. 9. 30	ダ ム	町 教 委	柴 登己夫
22	はやし の 之 郷	上田市大字林之郷	63. 8. 3 63. 9. 30	農 業 関 連	市 教 委	川上 元
23	ゆう 遊 光	駒ヶ根市東伊那22、23	63. 8. 22 63. 9. 30	"	"	友野 良一 気賀沢 進
24	め 目 切	岡谷市長池字中屋3820-1他	63. 5. 17 63. 5. 26	住 宅	"	会田 進
25	こ まるやまこみん 小丸山古墳群	諏訪市大字豊田字小丸山	63. 9. 1 63. 9. 30	工 場	"	宮坂 光昭
26	まえ 前 沢	諏訪郡原村1822ほか2筆	63. 8. 22 63. 9. 9	農 業 関 連	村 教 委	平出 一治
27	小 島 柳 原 遺 跡 群	長野市大字柳原小島字上過上木他	63. 9. 12 63. 9. 19	"	市 教 委	矢口 忠良

発掘調査一覧 (その1)

調査の概要		主な遺物		所要見	
時代	主な遺構	主な遺物		所要見	
平	住居址1、小竪穴1	土師器7、土鍾6、須恵器3、海老鏡1 ふいご羽口2、八花鏡1、方鏡1		昭和57年度調査の諏訪郡衛推定地の隣接地。	
縄、奈、平	縄文住居址1、土坑墓1 奈～平住居址13集石1	土器50箱 鉄器5点 石器2箱 古銭(中世)6枚		隣接地に掘立柱建物群あり(昭和48年調査)。	
古	円墳4基(6～7世紀) 方墳1基(7世紀初) 石棺2基	金属器、玉類1箱 土器類5箱			
縄	住居址1 土坑10	石器、土器、テンバコ5			
奈、平	住居址14	土器片 コンテナ10			
縄		縄文テンバコ12 石器テンバコ1 土器、陶器1			
縄、平	住居址14軒 小竪穴220	土器片8種、石斧22点、石鏃30点 凹石7点、土偶2点			
平	竪穴住居址142、土坑3 掘立柱址3、溝8	須恵器、土師器20箱、灰釉20箱 緑釉1箱、石器類2箱他		昭和62年度より継続「長良私印」など出土で注目された遺跡	
古、奈、平 中	住居址7、土坑34 竪穴1、ピット29	古墳時代前期遺物、須恵器、陶器等			
平	竪穴24、ピット多数 土坑17、溝1	布目瓦(丸瓦、平瓦など) 緑釉陶器10 須恵器、テンバコ4		大村廃寺推定地	
縄～中		弥生(土・石)10箱、平(土器)10 古(土器)30、奈(土器)10、中(陶器)4		恒川遺跡群、伊那郡衛推定地の1部	
平	住居址4、土坑12	土器1、石鏃3点、石斧4点			
旧石、縄	配石5基、礫群8基	ナイフ形石器7、彫器3、スクレイパー4、 石刃2、クサビ形3、フレイク3、他			
縄、平 近	小竪穴2基 積石1基(近世?)	縄文土器片1箱、石器類1箱			
弥		弥中期～後期30箱、古墳時代後期1箱 人骨コンテナ2		礫床墓を含む弥生墳墓か	
縄	竪穴(奈良1・古墳1 平安4)	縄文土器片186片、土師器片220片 灰釉片43片他			
古		ガラス小玉3、鉄鏃2 勾玉1、槍鉋1、他			
弥、古、奈 平	住居址5、溝4	土器片4			
縄、平	竪穴5、土坑8 古墳1、ピット4、他	土器片コンテナ2、石器コンテナ2 鉄器3点、他			
古	196・197・198号古墳	鉄製品破片220点、土器片705点、鏡片5点 玉類8点、骨片30点、他		大室古墳群の継続調査	
縄		土器1箱、石器3点			
弥～平		土器片10類、鉄製品5			
縄～古 平、中	竪穴、弥2、古1、 平6、中1	土器片、弥2箱、建物炭化材1 灰釉、平1箱、中近陶器1箱		○西側の反目遺跡と一体となると考えられる ○炭化材は「陸屋根式」の住居と考えられる	
縄～平	なし	石鍾1、土器片、石片若干		湧水近くで、遺構発見されず、当時は宅地として適していなかったと思われる。	
古墳	小竪穴11	縄文土器、土師器テンバコ1 弥生2点、銅鈴1、他			
縄、平	住居址1	縄文土器片テンバコ1 平安 石器1			
弥、古	住居址6、土坑2他	土器片テンバコ4、石斧1			

長野県内調査報告書紹介(6)

- ◆**鋳物師屋**—長野県小諸市鋳物師屋遺跡発掘調査報告書—(1988、3)(B5 117+60)小諸市教委<佐久市・小諸市・御代田町にまたがる鋳物師屋遺跡群のうちの小諸市分の調査報告、溝区画された掘立柱建物群(7世紀)、奈良時代の集落跡、円面硯、焼米出土。>
- ◆**三沢遺跡**(1987、9)(B5 194+30)南佐久郡川上村教委、総武都市開発株式会社、<野辺山先土器時代遺跡群のうちナイフ形石器を中心とした良好な一括資料>
- ◆**鍛冶屋遺跡**—緊急発掘調査報告書—(1988、3)(A3 183+102)東部町教委<縄文前期初、後葉の好資料>
- ◆**辻沢南遺跡**—馬住ヶ原工業団地及び馬住ヶ原運動公園造成事業緊急発掘調査報告(1988、3)(B4 139+102)駒ヶ根市教委・駒ヶ根市土地開発公社<縄文中期環状集落完掘例 住居数98、硬玉大珠、香炉型土器>
- ◆**反目南遺跡**—駒ヶ根市東部土地改良区東部地区県営ほ場整備事業(昭和62年度分)埋蔵文化財緊急発掘調査 駒ヶ根市教委・上伊那地方事務所(1988、3)(B4 86+29)<縄文早、古墳後、平安、礎石もつ堅穴住居>
- ◆**古城南遺跡**—駒ヶ根市東部土地改良区下間地区県営ほ場整備事業(昭和62年度分)埋蔵文化財緊急発掘調査 駒ヶ根市教委・上伊那地方事務所(1988、3)(B4 55+8)<平安堅穴、中・近世建物跡>
- ◆**矢崎遺跡**—地域農業拠点整備事業下河原地区に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書、下伊那郡上郷町、上郷町教委(1988、3)(B4 49+29)

◆**八幡原遺跡**—農村基盤総合整備事業上黒田東部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 上郷町・上郷町教委(1988、3)(B4 36+24)<縄文中、弥生後集落跡>

◆**五雲西12号古墳**—佐久平南限最終末期群集墳の調査、南佐久郡臼田町教委(1988、3)(52+14)<8世紀初頭の高墳、追葬、青銅製鉾具・丸柄・巡方>

◆**松本市島立北栗遺跡Ⅲ**—県営ほ場整備事業に伴う緊急発掘調査報告書 松本市教委(1988、3)(50+29)<奈良・平安集落跡>

◆**松本市島立条里的遺構**—県営ほ場整備事業に伴う緊急発掘調査報告書 松本市教委(1988、3)(33+24)<平安集落、中世墳墓>

◆**松本市前田木下遺跡**—遺構確認調査報告書、松本市教委(1988、3)(31+4)<縄文中期集落跡>

◆**虚空蔵東遺跡**—長野県小県郡丸子町虚空蔵東遺跡発掘調査報告書 丸子町教委・上小地方事務所(1988、3)(24+7)<中～近世建物>

◆**寺開土遺跡**—長野県小県郡丸子町寺開土遺跡発掘調査報告書 丸子町教委・上田建設事務所(1988、3)(20+3)<中世渡来銭>

長野県埋蔵文化財センター人事異動

○**転・退任** 3月31日付

退任 調査研究員田川幸生・関全寿・伊藤隆之
 転任 調査部長樋口昇一(池田工業高教頭)、調査研究員西牧尚人(箕輪南小学校教頭)、松田青樹(山辺小)小松望(清水小)小松上(富士見高原中)唐木孝雄(伊那小)小口徹(岡谷南部中)小林俊一(山口中)和田文人(諏訪西中)馬場長光(阿智第二小)黒岩龍也(茅野東部中)百瀬長秀(文化課)金原正(岩村田高)豊田伸一(飯田長姫高)中浜徹(諏訪実業高)主事 笠井浩(下高井地事)六川直利(文化課)

○**新任**(4月1日付)

松塩筑調査事務所 所長 堀内計人(同庶務部長)長野調査事務所 調査部長(兼事務局同)笹沢浩(文化課)調査研究員 平林芳明(川中島中)青木一男

(岡谷小)臼居直之(諏訪南中)池田哲(墨坂中)山崎光頭(平野小)中村敏生(戸狩小)山崎博也(裾花中)久保直隆(青木島小)越川長治(五加小)内山美彦(新採)中平智昭(同)佐久調査事務所 調査研究員 興水太伸(青沼小)宮脇正実(中塩田小)三石俊司(八千穂中)木内英一(軽井沢西部小)下島章裕(新採)伊藤隆之(佐久調事)長野調査事務所 主事 柳沢洋良(諏訪建設事)佐久調査事務所 庶務部長補佐 中沢克明(河川課庶務係長)同主事 関次郎(小海高校)

○**退任** 6月8日付

副理事長 高橋弘典(県農業信用基金協会副会長)

○**転任** 6月8日付

副理事長 伊藤万寿雄(佐久調査事務所長)佐久調査事務所長 畑幹雄(同庶務部長)

長野県埋蔵文化財センター日記抄(4月～9月)

- 4月1日 新任者辞令交付(於県庁)
- " 2日 北村遺跡調査調整会議(於県庁)(県教委・高速道局・公団・センター)
- " 4日 最初の全体会・調査委員会・班会
- " 5日 初任者研修(～8、長野)幹部会
- " 7日 整理作業補助員作業開始(松)、塩崎地区地権者説明会(長)三重県教育委員会児玉道明氏ほか2名来所(長)
- " 10日 塩崎地区地権者説明会(長)
- " 11日 北村遺跡調査開始(松)塩崎地区地権者説明会(長)
- " 12日 坂北地区地権者説明会(長)
- " 14日 十二遺跡調査開始(長)SBC取材(松)
- " 18日 鶴前遺跡調査開始式、SBC、TBS、NHK、信毎、朝日取材(長)高速道建設事業打合せ会議(長)下茂内・鶴ヲネ・大星尻・東大之保・栗毛坂遺跡調査開始式(佐)
- " 20日 調査部長会議(長)
- " 21日 筑波大学岩崎卓也教授現地指導(佐)
- " 25日 北山寺遺跡調査開始(佐)北村遺跡人骨整理打合せ会議(～26)(松)(於協協匠大)
- " 26日 市町村高速道担当者会議(長)
- " 27日 埋文協関東・中部ブロック会議(～28 於土浦市)3名出席
- " 28日 十二遺跡調査終了(長)
- " 30日 向六工遺跡試掘調査(長)中央道発掘遺物展打合せ会議(松)
- 5月1日 SBC テレビ県民室「よみがえる古代のロマン」放映
- " 6日 参議院村沢建設委員長下茂内遺跡視察、東大久保遺跡調査終了、下茂内遺跡現地協議(県教委、佐久市教委、センター)(佐)
- " 9日 62年度法人監査、東林遺跡調査開始(佐)
- " 10日 63年度発掘調査打合せ会議(公団、県教委センター)(佐)県広報文書課(白水社)鶴前遺跡取材(長)
- " 11日 石川条里遺跡等調整会議(公団、長野高速、県教委、センター)(長)
- " 12日 作業棟起工式(長)
- " 13日 中央道発掘遺物展打合せ会議(松)群馬県史刊行会能登健氏ほか2名来所、堂林遺跡

- 試掘(文化課)立ちあい(長)
- 5月16日 石川条里遺跡等打合せ会議(公団、県教委センター)(長)
- " 17日 県出納長下茂内遺跡視察、県総務部長栗毛坂遺跡視察(佐)公団62年度立入調査(松)
- " 18日 石川条里遺跡等調整会議(公団、県教委、センター)(長)
- " 20日 向六工遺跡打合せ会議(筑北高速道、県教委、センター)森嶋理事鶴前遺跡視察、長野放送鶴前遺跡取材(長)、中央道発掘遺物展打合せ会議(松)
- " 21日 大阪埋文センター坪井清足理事長、戸沢充則明大教授一行北村遺跡視察(松)
- " 24日 小出文化財保護協会事務局長鶴前遺跡見学(長)
- " 25日 第15回埋文センター理事会(於長野市)、下茂内遺跡試掘調査結果県教委へ報告(佐)、石川条里調整会議(公団、高速道局、県教委、センター)(於県庁)(長)
- " 26日 北村遺跡記者発表(松)
- " 29日 北村遺跡現地説明会(参加者850名)(松)榎原考古学研究所石野博信副所長北村遺跡見学(松)
- " 30日 石川条里遺跡打合せ会議(高速道局、県教委、センター)(於県庁)(長)
- " 31日 石川条里遺跡調整会議(公団、高速道局、県教委、センター)(於県庁)(長)
- 6月1日 塩崎地区地権者説明会(長)
- " 2日 中央道発掘遺物展打合せ会議(松)
- " 3日 塩崎地区地権者説明会(長)
- " 5日 鶴前遺跡現地説明会(参観150名)信濃毎日新聞他取材(長)
- " 7日 中央道発掘遺物展打合せ会議(松)
- " 8日 埋文センター幹部会(於長野市)
- " 9日 上中原遺跡調査開始(佐)、全国埋文協総会(於京都)2名出席
- " 10日 北村遺跡調整会議(公団、県教委、センター)(松)
- " 13日 国学院大学小林達雄教授下茂内遺跡現地指導(佐)
- " 15日 北村遺跡E地区調査終了(松)農協高速道対策委員会(北信地区)鶴前遺跡見学(長)、石川条里遺跡打合せ会議(公団、センター)(長)
- " 20日 東林遺跡調査終了(佐)

- 6月21日 上中原遺跡調査終了(佐)、石川条里遺跡表土剥ぎ作業開始、矢板工事1部完了、長野市埋文センター青木和明氏現地指導(長)
- 〃 22日 鶴ノネ遺跡調査終了(佐)
- 〃 23日 吹付遺跡調査開始(佐)、宮崎大学藤原宏志助教現地指導(～24)(長)
- 〃 27日 農協高速道対策委員会(上田地区)鶴前遺跡見学(長)、石川条里遺跡打合せ会議(県教委、センター)
- 〃 28日 長野県遺跡調査指導委員会林茂樹委員鶴前遺跡視察(長)
- 〃 29日 奈良国文化財研究所木下正史室長、田中哲室長、文化庁加藤充彦文化財調査官、更埴市教委矢島宏雄氏鶴前遺跡視察(長)
- 7月3日 北村人骨整理打合せ(～4)(独協医大)(松)
- 〃 4日 石川条里遺跡発掘調査に入る。宮崎大学藤原助教、古環境研究所による石川条里遺跡プラントオパール採取(～7)(長)
- 〃 7日 村山県教育長下茂内遺跡視察(佐)
- 〃 8日 埋文センター調査部長会議(於佐久市)
- 〃 11日 県監査委員下茂内遺跡視察(佐)
- 〃 20日 埋文センター所長会議(於長野市)
- 〃 21日 独協医大五十嵐氏北村人骨取り上げ指導(～22)(松)
- 〃 26日 石川条里遺跡調整会議(公団、高速道局、県教委、センター)(於県庁)(長)北山寺遺跡調査終了(佐)
- 〃 27日 丸山遺跡調査開始(佐)、長野、群馬両県教委埋文連絡会議(於長野)5名出席 同会議石川条里視察(長)
- 〃 28日 長野、群馬両県教委埋文連絡会議下茂内遺跡視察(佐)北村遺跡調査終了(松本)
- 〃 29日 栃木県文化振興事業団職員4名来所(長)
- 〃 30日 石川条里打ち合せ会議(県教委、センター)(長)、中央道発掘遺物展オープン(於松本)
- 8月1日 村山県教育長、内堀次長ら1行石川条里遺跡視察、黒坂文化財保護協会長ら石川、鶴前遺跡視察、森嶋理事、石川条里遺跡視察(長)
- 〃 2日 長野調査事務所作業棟竣工式、鶴前遺跡調査終了、石川条里遺跡打ち合せ会議(県教委センター)(於県庁)(長)
- 〃 4日 長野県遺跡調査指導委員会開催(於長野市)、同委員石川条里遺跡視察(長)
- 〃 6日 石川条里遺跡打合せ会議(県教委、センター)(長)
- 8月7日 石川条里遺跡(Aa-1地区)現地説明会、信濃毎日新聞石川条里遺跡取材(長)
中央道発掘遺物展講演会「古代集落を考える」講師小笠原好彦滋賀大教授(松)
- 〃 8日 小笠原滋賀大教授来所(松)
- 〃 10日 石川条里遺跡調整会議(公団、高速道局、長野高速、県教委、センター)(於県庁)(長)
- 〃 12日 文化課釜蓋遺跡、第2回試掘調査、松塩筑調査事務所立合い(松)
- 〃 17日 木戸平A遺跡調査開始(佐)
- 〃 18日 信州大学西沢寿晃氏大星尻古墳群他現地指導(佐)、信州社会科学研究会石川条里遺跡見学(長)
- 〃 19日 石川条里遺跡第9地点調査開始(長)
- 〃 22日 来年度調査について打ち合せ会議(県教委、センター)(長)
- 〃 23日 中央道発掘遺物展打ち合せ会議(松)
- 〃 24日 北村遺跡残件調査につき打合せ会議(公団、センター)(松)
- 〃 26日 塩崎地区地権者説明会(長)
- 〃 29日 赤沢城跡調査につき打合せ会議(県教委、中電、センター)(長)
- 〃 30日 埋文センター幹部会(於長野市)
- 9月2日 北村遺跡残件調査について打合せ(公団、県教委、センター)(松)
- 〃 7日 石川条里遺跡打合せ会議(公団、県教委、センター)(長)
- 〃 8日 来年度調査計画について打合せ会議(県教委、センター)(於県庁)(長)
- 〃 12日 石川条里遺跡打合せ会議(公団、センター)(長)
- 〃 13日 石川条里遺跡調整会議(公団、高速道局、長野高速、県教委、センター)(於長野市)(長)
- 〃 14日 大星尻古墳群調査終了(佐)
- 〃 15日 第2回プラントオパール採取、藤原宮崎大助教、古環境研究所石川条里遺跡来跡(長)
- 〃 16日 埋文センター幹部会、調査部長会議(於長野事務所)
- 〃 19日 京都国立博物館特別展へ資料貸出し(松)
- 〃 20日 平出考古博物館特別展へ資料貸出し(松)、全国埋文協研修会(於北海道)2名出席
- 〃 21日 石川条里遺跡調整会議(公団、高速道局、長野高速、県教委、センター)(於長野市)(長)
- 〃 26日 北村遺跡残件調査終了(松)
- 〃 29日 長野市老人学級石川条里遺跡見学、信濃毎日新聞石川条里遺跡取材(長)
- 〃 30日 木戸平A遺跡調査終了(佐)奈良国立文化財研究所木下正史室長、更埴市教委矢島宏雄氏石川条里遺跡視察(長)